

平成25年度 総合目録ネットワークへのデータ提供に関するアンケート 結果

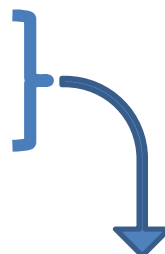
アンケート回収率

58/71 館	81.7%
---------	-------

 2013年7月1日～8月9日実施
 ※中央館が分館についても回答する都道府県については、中央館のみを回収対象とした。

1 今後のシステム入替の予定について

平成25年度中	8館
平成26年度中	7館
平成27年度中	17館
平成28年度以降	4館
時期未定	1館
予定なし	21館



(のべ)

ID体系変更	3館
MARCタイプ変更	2館
DC-NDL(RDF)フォーマット切替	9館
共通フォーマット版変更	0館

ID体系変更の際は、全データの入れ替えが必要となります。また、DC-NDL(RDF)フォーマットへの切替えの場合も、書誌詳細画面への直接遷移を実現する必要があるため、原則、全データの入替が必要です。

なお、MARCタイプ変更への切替えおよび、共通フォーマットの版変更が生じる場合は、リプレース後の新システムから抽出された初回差分データを確認します。

上記のいずれかに該当する場合は、事前にご相談をお願いします。

2 図書館システム、MARC、横断検索システムについて

図書館システムのベンダー

NEC	20館
富士通	23館
NTTデータ	7館
日立製作所	5館
その他	3館

書誌詳細画面の直接表示

できる	43館
できない	12館
分からない	3館

利用MARC	(のべ)
TRC-MARC	48 館
NS-MARC(日販)	11 館
JAPAN/MARC	15 館
NACISIS-CAT	6 館
トーハン	2 館
その他	9 館

県域横断検索システムのベンダー

NEC	8 館
富士通	17 館
NTTデータ	7 館
日立製作所	4 館
その他	6 館

OpenURL対応

対応している	6 館
対応していない	35 館
分からない	1 館

横断検索の実現方法

(のべ)

市町村立で統一パッケージを導入	12 館
市町村立が書誌データを送付	3 館
スクレイピングで抽出	35 館
WebAPI	5 館

3 データ提供方法・頻度について

“和図書”以外の条件指定

指定している	14 館
していない	33 館

更新データ転送の自動化

している	10 館
していない	38 館

更新データ転送の頻度

毎日	2 館
毎週	13 館
隔週	5 館
毎月	18 館
年に数回	4 館
その他	6 館

国立国会図書館サーチでは、OAI-PMH(メタデータを交換する標準的な仕組み)という人手を介さない自動的なデータ連携を推奨しています。

データ提供方式を従来のFTPやHTTP-GETからOAI-PMHへ切替えるため、システムリプレイス等のタイミングで図書館システムへのOAI-PMH実装をご検討いただければと思います。

4 総合目録ネットワーク事業の今後の取り組みに関する主なご意見

WebAPIを用いて、総合目録をある程度省力化して構築できるのが望ましい。
WebAPIの図書館システムへの導入について、各ベンダーに積極的に働きかけてほしい。
全国規模の横断検索が実現すれば、最終保存館の特定や、相互貸借事務の省力化、傾向分析、統計等、とても便利になる。
WebAPI導入促進や県域総合目録とNDLサーチとの連携促進について、積極的な情報提供や提案、システム更新検討に向けての技術的なサポートをいただけるとありがたい。
書誌割れや誤同定については、ある程度は許容する現状の方式でもやむなしと思います。
検索の時間短縮のため、同じ書誌と思われるものはできるだけ統合してほしい。提供したデータに誤りがある場合は、できる限り修正をするので、定期的に教えてもらいたい。
目録の質が向上するのは良いが、県立図書館側の負担はできるだけ軽減していただけるとありがたい。

アンケートのご協力をありがとうございました。
いただいたご意見は、今後のゆにかねっと運営に活用してまいります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。